

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		齊藤 正敏	所 属		工学部 機械システム工学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.40	1. 機械材料 I : 多種多様な材料を原理から統一的に理解できるように講義ノートを書き直し、講義毎に問題を解くようにして学生自身が原理から材料を統一的に理解できているかチェックできるようにする。 2. 確率統計 : 各章ごとに解くべき演習問題数及び演習時間を更に増やして、学生自身が各章での理解度をチェックできるようにする 3. 本年度の卒論生3名とも就職希望であり、3名とも卒論の結果を早期に出さなければならない事情があり、前学期の期間に時間を取る実験を多く行い、後学期に結果をまとめるように時間配分をする。		0.40	1. 本年度は、理解力向上を目指し、各章終了後に章の問題を自ら解くことに重点をおいた。合格率は約80%であったが、当学科の学生は、板書をしないと講義に集中しない学生、考えることよりも解答のみを希望する学生が多々おり、材料の原理的な理解は、まだ道半ばである。 2. 確率・統計も各章終了時に多数の問題を用意し、学生自ら解くことを行った。合格率は約90%であったが、機械材料と同じく、解答のみを希望する学生が多々おり、原理的理解は道半ばである。 3. 3名の内、1名は内定、1名はイギリスの大学院、1名は公務員浪人という結果であった。
研究	0.30	1. 動的スケール理論を内部応力に適用した2年間にわたる研究成果をまとめ、高インパクトファクターの欧文誌に投稿し、掲載されるようにする。 2. 直流下での温度表面相転移に関する2年間の研究成果を欧文誌に掲載されるようにまとめる。 3. 量子共鳴電析の研究成果を欧文誌に掲載されるようにまとめる。		0.30	1. 高インパクトファクターの雑誌、Inter. J. Electrochem. Sci.に10(2015)5639-5649及び11(2016)1651-1660の2報が掲載された。 2. 量子共鳴と温度表面転移について論文にまとめたが、本年度予算を使い切ったため、掲載費が出せないため、H28年度4月に投稿予定。
社会 貢献	0.20	1. Editorial Boardのメンバーとして三つの欧文誌electrochemistry, corrosion, ISRN materials scienceをサポートする活動、査読、出版物の提言、助言等の仕事を行い3誌の国際的評価向上及び学問の発展に寄与する。 2. 欧文誌の査読依頼を積極的に引き受ける。		0.20	1. 科研費審査員として研究課題110件の評価を行った。 2. Applied Surface Scienceへの投稿論文1報の査読を行った。
管理 運営	0.10	1. 研究関連の会議で提言を行う。 2. JABEE広報委員会にて企業向けのアンケート案の作成、これまで行われていない学科ホームページの窓口作りを行う。		0.10	1. 研究推進委員として機械システム工学科の第二期研究業績及び選ばれた研究業績をまとめた。 2. JABEE広報委員長として企業へのアンケート案及びアンケートを依頼する役所・企業案をまとめた。アンケート実施時期については改組があるため、未定。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		古川 俊雄		所 属		工学部 機械システム工学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.40	これまでの授業アンケートを参考に、授業に占める演習の割合を多めにし、学生の理解度が増すように努める。また、学生が興味を持てるように、科目の位置づけや実際例を含めた授業を行う。社会連携担当副学部長として工学部後援会で就職説明会を行い学生の就職活動の援助をする。また、大学院前期課程専攻主任として学生の大学院進学のための情報発信に努める。				0.40	授業に関してはできるだけ演習を行い、学生自らの理解度チェックができるように配慮した。1年次の1科目は大学の授業に慣れないからか必ずしも満足度が高い学生が一定数いたが、高学年の授業では満足度の高い学生が多く、特に選択科目の材料力学Ⅲでは60名を超える受講生のうち期末試験を受けた学生はすべて合格し、しかもAとBの学生の割合が高かった。学生の進路に関しては就職担当教授と連携して進路決定率のアップに努め、前期課程の19名はすべて就職先が決まった。大学院進学については3年ぶりに合格者が定員を上回った。				
研究	0.40	関係する学会講演会等に積極的に参加し、最新の研究成果の知見を得るとともに可能な限り研究発表を行う。研究成果をまとめて学術誌に投稿し、掲載されることを目指す。外部資金の獲得を目指す。				0.40	オーストリアのウィーンで9月に開催された国際ワークショップに出席し研究発表を行った。発表内容はSpringer社から2016年に発行される書籍に含まれる予定である。2016年に開催される国際会議(6月イタリア)とアジア会議(10月中国)に参加するため1件は最終論文を、もう1件はアブストラクトを提出した。				
社会 貢献	0.10	社会連携担当副学部長として工学部後援会の就職説明会や理事会・総会の円滑な運営に努める。 論文校閲依頼があれば積極的に引き受ける。				0.10	工学部後援会の理事会・総会では円滑な運営を行うことができた。総会後の懇親会ではスムーズな司会進行に努め成功を収めた。就職説明会なども昨年度と同じ回数を実施した。内閣府沖縄総合事務局の依頼に基づき、台湾の台北市を中心とした2度の企業マッチングに参加し、次年度につながる成果を得ることができた。海外の学術雑誌の校閲委員を依頼され、積極的に引き受けた。				
管理 運営	0.10	大学院前期課程専攻主任および社会連携担当副学部長として学科会議、教授会、研究科委員会などで円滑な運営に協力する。				0.10	学科会議、教授会、研究科委員会などで会議の円滑な運営に協力した。中期計画推進管理システムにおけるプロジェクトシートの社会連携部分を担当した。学科構成員に対しては口頭での説明のほかメーリングリストも活用して情報の共有を図り、例えば提出物の期限内提出も確実にこなした。				
	0.00					0.00					
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		真壁 朝敏	所 属		工学部 機械システム工学科	職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	大学院博士前期および後学期の院生の指導を行う。そして、博士後期の最終年度の院生が今年度修了できるように指導する。また、学部学生の講義にあたっては、前年度の指摘に注意しながら、講義を行い、改善する。			0.30	大学院博士前期および後期の院生を指導し規定の年度内に修了させることができた。修了した院生は全員が査読付きの学術論文に投稿し、論文掲載の経験をした。学部の講義にあたっては、前年度の指摘に注意し、マイクを用いる等の工夫を継続して行った。		
研究	0.20	1編以上の論文を国内あるいは国外の論文集または学術誌に投稿する。また、国際会議等でも発表をするように心がける。他大学の研究者との共同研究を行うように努力する。そして、最近話題になっている、自然エネルギーに関係した研究について実験的な研究をすることを目標にする。			0.20	複数の論文を国内あるいは国外の学術論文誌に投稿し受理されている。また、国際会議においても自身で発表した。年度内に香港で特別講演を行う予定がある。自然エネルギーによる発電に関してアイデアを公表した。炭素繊維複合材料に関する九州大学応用力学研究所との共同研究の内容が論文に掲載された。		
社会貢献	0.20	島嶼防災研究センターと関連して、本学と外部団体との共同的な取り組みに協力する。材料学会九州支部、常議員の役目を果たす。日本複合材料学会の委員として当学会に協力する。その他、可能な事業に協力する。			0.20	島嶼防災研究センターと関連する2度のシンポジウムと1度の講演会を開催し、社会連携の観点から協力した。日本材料学会九州支部常議員、日本複合材料学会の代議員を務め協力した。来年度も継続することとなった。		
管理運営	0.30	学科長として学科の運営に関することをやっていく。また、教授会等の会議において学科の立場での発言を行う。島嶼防災研究センターのセンター長として、当センターの運営に関する努力をする。			0.30	学科長として、学科の運営に関することをやった。また、教授会においても、学科の問題に関して発言した。島嶼防災研究センターのセンター長として、当センターの運営に努力した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		宮崎 達二郎	所 属		工学部 機械システム工学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケート等の指摘, 自らの発意に基づく授業の改善を試みる.</li> <li>・学生実験においてTAを有効に活用し, 教育効果の改善を試みる.</li> </ul>		0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習問題を増やし, 学生の理解度が向上するように心がけた.</li> <li>・TAには, 準備や片付けだけでなく, 実際の実験にも参加してもらい, 受講学生が気軽に質問できるよう工夫してみた.</li> </ul>			
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会誌への複数編の論文投稿を目指す.</li> <li>・複数回の学会での研究発表を目指す.</li> </ul>		0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料力学カンファレンス2015(日本機械学会)で1件の発表を行った.</li> <li>・「日本機械学会論文集」に論文(第1著者)が掲載となった.</li> <li>・「International Journal of Adhesions and Adhesive」に論文が掲載された.</li> <li>・「材料」に論文が掲載可となった.</li> </ul>			
社会貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパス等で, 研究成果を紹介する.</li> </ul>		0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスにて鋼の引張試験のデモを行い, 研究室の紹介を行った.</li> </ul>			
管理運営	0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次編入, 大学院等の入試業務に携わる.</li> </ul>		0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院入試(1次, 2次)で材料力学の問題の作成, 採点を行った.</li> <li>・3年次編入で材料力学の問題点検を行った.</li> </ul>			
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください.</li> <li>・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください.</li> <li>・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください.</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください.</li> </ul>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		藤川 正毅	所 属		工学部 機械システム工学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.35	授業と実験の目的やその工業的な立ち位置などを明確にして、学生が興味をもてる様に努力する。学生の理解度を確認しながら、お互いにコミュニケーションをとれるような授業環境を心がける。 また進路相談に関して、日ごろから学生の希望する進路や興味などを聞くようにし、状況を把握・そして適切に指導できるように準備を心がける。また、履歴書の書き方や面接など助言をする。大学院進学を考えている学生には、そのメリットや研究の興味などを可能な限り伝えられるように資料作成・面談を行う。			0.40	授業アンケートより学生の理解と評価が好評だった。授業や実験内容が社会でどのように役に立つのかをできるだけ含めるようにスライドや資料を工夫した。また研究の意義や目的なども講義の中に交えて、学生の興味を引き付けるように工夫した。 また、積極的に学生の就職活動状況について話しかけ、履歴書の助言などもおこなった。		
研究	0.40	学会誌への複数の論文投稿を目標に研究を進める。また、外部資金や共同研究の獲得を目指す。			0.40	投稿論文2編が採択された。また2件の共同研究を行った。以上より、目標を達成したと言える。(その他、国内2件、国際学会3件の発表、学会のセミナー講師1件、企業セミナーでの講演1件等を行った。)		
社会 貢献	0.15	研究に関する学科活動や勉強会に参加する。			0.10	ゴム協会主催のゴムの力学研究分科会に参加・発表をおこなった。また機械の日のイベントに参加して、子どもたちと物づくり体験を行った(速く走るミニ四駆づくり)。		
管理 運営	0.10	教授会、学科会議に積極的に参加する。また、学科内および学部内等の各種委員会に参加し協力する。			0.10	去年度に引き続き、施設環境委員として活動した。その他、学内の行事などに参加した。		
	0.00				0.00			
計	1.00				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		倉田 耕治	所 属		工学部 機械システム工学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	機械力学(1組, 2組, 夜間, 1組と2組は必修), 信号処理工学, 工業数学IIIの授業を行う。授業の最後の二, 三回で集中的に演習を行うことで, 成績と単位取得率の向上を図る。			0.30	目標設定に挙げた授業を担当した。大学院生2名を指導して, それぞれに研究会発表を行わせた。大学院生2名, 卒論生2名が就職し, 卒論生1名が他大学の大学院に進学した。		
研究	0.30	大学院生, 他大学(岡山理科大学, 宮崎大学等)との共同研究をおこなう。学会, 研究会発表または論文発表2~3件程度。			0.30	大学院生, 他大学(岡山理科大学, 宮崎大学)との共同研究をおこなった。研究会発表2件。		
社会貢献	0.10	電子情報通信学会論文誌の査読委員を務める。依頼があれば一般向けの講演会, 学会, 研究会の座長, 顕彰評価委員などをおこなう。			0.10	沖縄県高等学校地学教育研究会総会(5月22日)において, 依頼を受けて講演した。九州工業大学博士課程の学生をインターンシップ研修生として受け入れた(8月14~25日)。		
管理運営	0.30	JABEEシステム委員会の委員長を務める。ハラスメント防止対策委員会の工学部代表委員を務める。パワーハラスメント事件の調査委員会の委員長を前年度から継続中。			0.30	JABEEシステム委員会の委員長を務めた。ハラスメント防止対策委員会の工学部代表委員を務めた。前年度のパワーハラスメント事件の調査委員会による調査が終了し, 委員長として報告書を提出した。別のパワーハラスメント事件の調査委員会が立ち上がり, 委員長として調査を継続中。		
					0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。</li> <li>・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		柴田 信一		所 属		工学部 機械システム工学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.30	機械基礎工学, 材料加工学I, 高分子合成論, 機械システム工学実験I,IIおよび大学院博士前期課程において講義を行う。				0.30	機械基礎工学、材料加工学、高分子合成論、機械システム工学実験において講義を行った。大学院・科学者の倫理・フロンティアエンジニアリングではコーディネーター、講師を担当した。科学者の倫理において工学部教育賞を得、教授会でFDを行った。				
研究	0.40	国際的学術雑誌にて研究論文を発表する。共同研究で外部資金を得る。				0.40	著書が出版された。Natural Fiber Composites, CRC Press, 2015, Chap6担当。大阪ガスと受託研究を行った。三重金属株式会社と共同研究を行った。株式会社沖縄ウコン堂と共同研究を行った。以上、3社から外部資金を得た。成形加工学会で2件発表を行った。				
社会 貢献	0.15	研究の実用化を推進する。事故調査依頼等を引き受ける。				0.15	山口県岩国市で起きた岩国基地燃料施設における燃料漏れ事故調査委員として分析し報告書を提出した。沖縄県発明協会において、産学官共同研究をテーマに発明スクールにて講演を行った。JICA、熱帯地域における持続可能なバイオマスおよびバイオエネルギー利用、コースの講師を務めた。				
管理 運営	0.10	機械工作工場長, 教育委員, JABEEのFD委員長として活動を行う。				0.10	JABEE、FD委員長として授業改善アンケートのwebでの公開を行った。工学部改組WGのメンバーとして活動した。工学部教育委員として活動を行った。教授会では修業年限内卒業率の改善について、FDを行った。工作工場長として活動した。				
進路 指導	0.05	学生の就職活動および大学院進学を支援する活動を行う。				0.05	4年次学生を指導し、4年次卒業研究配属学生4名中3名を大学院に進学させた。1名は民間企業の内定を得た。				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>				1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		近藤 了嗣	所 属		工学部 機械システム工学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.45	講義に関して、専任科目では授業評価アンケートで本学教育目標にある「普通」以上7割達成を目指して継続的改善に努める。共担科目では「普通」以上7割達成に貢献できるように努める。証拠資料はJABEE保存資料とする。なお、教育業務に関しては、評価者の評価結果が公開されたH23年度から毎年、目標を達成すると共に評価Aを載せており、本目標設定は妥当と考えられる。 学生支援に関しては、1年次1組の年次指導教員を務める。また、卒業研究指導の学生に関しては、進路指導を行う。		0.45	専任科目、共担科目共に「普通」以上7割を達成した。前学期専任科目の機械システム設計製図ではエンジニアリング・デザイン教育のため、課題の自己設定、自己解決、自己評価、グループワークを実施した。CAD演習に関して、昨年度、操作性に関して検討したフリーソフトの鍋CADを新たな教材に採用することで授業環境改善に取り組んだ。大学院の講義として機械基礎工学特論Ⅰ、Ⅱを前・後学期開講して提供科目の充実に貢献した。専任科目では「普通」以上、10割を達成した。今年度の目標以上を達成した。本年度から日本工学教育協会で活動を開始し、JSEE第63回年次大会にて「フリーソフトを用いたED教育とPM教育を目的とした機械システム設計製図課題の検討」について講演を行った。2015九州PCカンファレンスin沖縄にて「地域環境とエネルギー効率を考慮した固体力学系の学生実験課題の検討」について発表を行った。卒業研究担当学生3名に定期的に進路相談の時間を留意した。3名とも進路が決まった。以上、当初の目標以上を達成した。
研究	0.30	現在、遂行中の研究課題に関する成果発表を目標とする。なお、研究進捗状況や研究予算、原稿執筆から掲載までに要する時間などを考慮して、年間1件程度を目標とする。証拠資料は業績とする。なお、評価者の評価結果が公開されたH23年から毎年、目標を達成すると共に評価Aを載せており、本目標設定は妥当と考えられる。		0.30	研究課題「金属多重結晶の疲労破壊と転位の運動・蓄積のマルチスケール解析」に関して他大学の研究者と共同研究を推進した。これらの成果に関してJSME2015年年次大会にて「繰り返し変形における振幅が主すべり系と二次すべり系の転位相互作用に及ぼす影響」と題して講演発表した。更に旭川高専の助教の先生と共著「双結晶モデルに生じるGN転位パターンと密度の粒界傾斜依存性」が公開され、今年度の目標以上を達成した。
社会貢献	0.05	技術相談等、専門知識を活かして社会貢献に努める。証拠資料は関連資料とする。実際に技術相談を受ける頻度は稀なため、業務ウエイトは0.05とするが、H25年度から毎年、評価Aを載せており、本目標設定は妥当と考えられる。		0.05	鳥嶋防災研究センターの併任准教授を務めると共に防災研究課題の遂行に取り組み、研究を通して地域貢献に務めた。なお、研究成果は日本機械学会2015年度年次大会にて「繰り返し変形における振幅が主すべり系と二次すべり系の転位相互作用に及ぼす影響」と題して講演発表した。本年度から新たな日本工学教育協会で活動を開始し、JSEE第63回年次大会にて座長を務め、今年度の目標以上を達成した。
管理運営	0.20	学科では広報委員会委員、学部では社会連携委員会委員を務める。証拠資料は関連資料とする。なお、評価者の評価結果が公開されたH23年から毎年、目標を達成すると共に評価Aを載せており、本目標設定は妥当と考えられる。		0.20	学科では広報委員会委員を務め、学部では社会連携委員会委員、工学部後援会・理事を務めた。全学では琉球大学機器分析支援センターRI施設放射線安全委員会委員を務め、今年度の目標以上を達成した。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		水口 尚	所 属		工学部 機械システム工学科	職 名		助教
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	学生とのコミュニケーションの機会を多く取るように努力する。 担当する学生実験、基礎製図の補足資料などを準備し、学生の理解を高める努力を行う。 指導担当の4年次昼間主コース(1組)の学生の履修指導を行う。 配属された卒業研究の学生に就職・進学指導を行う。			0.30	オフィスアワーの時間帯やメールアドレスを居室のドアに掲示した。 学生実験(前期:夜間主コース1テーマ、後期:昼間主コース1テーマ)と基礎製図(昼:1組)での補足説明の資料を作成・配布し、説明を行った。 4年次の行事(卒研中間発表・最終審査会等)の準備を行った。		
研究	0.60	卒業研究や修士の学生の研究指導を行い、学会などの学外での発表に積極的に参加してもらう。 研究成果をまとめ学術講演会に参加し、学術論文を投稿する。			0.60	卒業研究では3名、修士学生を3名を指導した。沖縄高専との合同研究発表会にて指導している学部学生2名が発表を行った。 研究成果をまとめ、国内学会(2件、内1件は指導している修士学生が発表)、国際学会(1件予定)で発表した。		
社会 貢献	0.05	化学工学会の沖縄化学装置懇話会の活動を通して地域産業への貢献を行う。 島嶼防災研究センター平成27年度併任教員として社会貢献を行う。			0.05	沖縄化学装置懇話会の庶務幹事、海水学会西日本支部の幹事として活動を行った。 The 3rd Japan-China Workshop on Material Science in Space(3/25-28開催予定)の現地実行委員の一人として尽力している。		
管理 運営	0.05	全学の動物実験委員会委員、工学部の予算配分委員会委員、学科内の会計委員会委員を担当する。			0.05	予算配分委員や学科内の会計委員として学科内外の会計に関する実務を担当した。また、他の全学的な委員会(動物実験委員会)も担当した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		宮田 龍太	所 属		工学部 機械システム工学科
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.40	講義は、情報科学演習および機械システム工学実験IIの制御系テーマ、卒業研究を担当する。また、1年次指導教員として、新入生の学習サポートを行う。さらに、研究室配属生と有志学生を対象に、研究に関連した資格(基本情報技術者試験や統計検定1級など)の勉強会を主催する。		0.40	情報科学演習(1年次1組)、機械基礎工学(体験型学習、1年次昼間主コース)、機械システム工学実験I、II(3年次)および機械システム工学演習(4年次)の制御系テーマの一部を担当した。 また、修士学生2名と卒研生4名の研究指導を行った。 さらに、制御系の有志学生を対象に、IT系の国家資格である「基本情報技術者試験」対策ゼミを行い、受講生から2名の合格者を出すことができた。
研究	0.30	他の研究機関(東京工業大学、富山大学など)との共同研究を行う。また、研究成果をまとめて学会で発表し、そこで得られたコメントを基に学術雑誌への論文投稿・採択をめざす。		0.30	他研究機関(沖縄工業高等専門学校、東京工業大学、富山大学)と共同研究を行った成果をまとめ、研究会にて発表を計14件行った。 さらに、これまでの成果をまとめた論文1件が物理学の専門雑誌に掲載された。
社会 貢献	0.10	オープンキャンパスや出前授業など、学外者を対象にしたイベントに積極的に参加する。		0.10	2015/7/18に開催されたオープンキャンパスで本学科制御系会場を監督し、高校生に本学科で学ぶ魅力を伝えた。 また、2015/8/25に開催された韓国海洋大学職員学生の施設見学の際、機械システム工学演習で制作した学科のプロモーションビデオを上映し、本学科の魅力を伝えた。
管理 運営	0.20	学部・学科内の委員会委員としての職務を遂行する。		0.20	学部・学科内の委員会委員としての職務を遂行した。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		屋我 実	所 属		工学部 機械システム工学科
			職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.30	機械システム工学科のJABBEプログラムの教育目標に即した講義(流体力学I1組と圧縮性流体力学)を行う。 成績の評価基準を明らかにして、希望する学生に公にする。またいつでも問い合わせができるように、対応を考える。 指導大学院生に国際学会で学会発表をさせ、外国の研究室に学生を派遣する。履修相談や将来の職業と受講科目との関連についての説明を行い、進学・就職の相談を行う。		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>機械システム工学科のJABBEプログラムの教育目標に即した講義(流体力学I1組と圧縮性流体力学)を行なった。</li> <li>成績の評価基準を明らかにして、希望する学生に公にし、特別な配慮を要する学生への対応も適切に実施した。</li> <li>博士後期課程の学生の学位取得まで指導した。</li> <li>指導大学院生に国際学会で学会発表をさせ、外国の研究室に学生を派遣した。外国に派遣された学生はその実績が評価され、他大学への採用が決まった。</li> </ul>
研究	0.25	国際学会への参加および国際誌への投稿・掲載を目指す。 また特許登録されたテーマの研究を積極的に推進する。 また外部資金に向けた申請を行う。 NEDOの新エネルギーベンチャー支援事業に応募する。		0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月に2件の国際学会への参加・発表を行い、国際誌への投稿した。</li> <li>特許登録されたテーマの研究を積極的に推進し、特許を使用とする企業との共同研究の方針が決まった。またマッチングプランナープログラムの研究が採択され、外部資金を獲得した。さらに、新たな特許申請も行った。</li> <li>イギリスの研究者を招へい研究員として8月に1か月間滞在する企画が採択された。</li> </ul>
社会 貢献	0.25	オープンキャンパスを含め学科で企画された学外者対象のイベントに積極的に参加・協力する。また学内外の団体との交流を深め産学の連携強化に努める。		0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>COCプロジェクトの一環で、離島3島(宮古島、石垣島、久米島)のサテライトを結んだシンポジウムを開催した。</li> <li>2017年に開催される熱流体系の国際学会を沖縄に誘致した。</li> </ul>
管理 運営	0.20	施設管理運営委員長として、学部内施設の円滑な運用に寄与する		0.20	施設管理運営委員長として、学部内施設利用の申請を公平に審査し、円滑な運用を可能にした。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前	瀬名波 出		所 属	工学部 機械システム工学科		職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱機関工学: 昨年に引き続き、教科書以外の資料、動画利用による視覚的に確認、理解できる工夫を改良する。</li> <li>・熱力学II: 具体的なイラスト等を用い、よりわかりやすい授業を行い履修率を向上させる。アンケート要望の多かった演習を増やす。</li> <li>・博士、修士学生の国内学会・国際学会発表指導</li> <li>・4年次3組(夜間主)最終学年指導教員。</li> <li>・研究室学生の進学や就職指導。</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育関連学会に複数参加し、アクティブラーニング、プロジェクトベースドラーニング等、文科省の推奨する新しい工学教育方法の情報収集を積極的に行った●ABEプログラムによるアフリカからの留学生(研究生)の受入・研究指導を行った ●熱機関工学: 教科書以外の資料としてエンジン動作アニメーション動画利用。環境問題(二酸化炭素排出削減)や電気自動車なども絡めて熱機関の今後の動向などについても講義した●熱力学II: 2年次1組、2組に加えて過年度生対象の3組を開講した。また単元毎に複数回に分けて試験をすることで理解を促した。今年度よりアクティブラーニング形式の授業を導入した。履修率も格段に向上した。アンケート結果も好評だった。●機械工学概論: 熱力学担当●JICA講義担当(4年目)●卒業研究(6テーマ: 主指導3名)●研究室学生の進学や就職指導を行った ●修士(指導教員2名、副査1名)研究指導●修士・博士学生の学会発表指導3件 ●4年次3組(夜間主)最終学年指導教員として指導を行った。とくに精神的ケアを要する学生への指導を行った ●年度目標は十分に達成したと考える</li> </ul>		
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係する学会等において積極的に研究発表を行う。</li> <li>・成果をまとめて学会誌へ論文投稿し、掲載されることを目指す。</li> <li>・産官学協力型研究PJ化を進める。(外部資金の獲得を目指す)</li> <li>・研究成果の広報活動を行う。</li> </ul>		0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国内学会発表4件●査読付き論文1件: Development of High-Speed and Large-Scale Culture Technology of Marine Algae Using Seawater With High Concentrations of Dissolved Carbon Dioxide, Heat Transfer Engineering, 37,7-8, 625-632.●応用藻類学会講演会にて特別講演を行った。●H26年度外部資金等2件応募(1件受託: JSTマッチングプランナープログラム)●研究成果の主な広報活動4件: 1) Bio-Japan2015にて研究紹介, 2) ガスエネルギー新聞にて研究紹介記事掲載(2016.1.11), 3) 教育学部の環境エネルギー教育プログラムで研究紹介, 4) ベネッセ・進研ゼミ「高校講座高2受験チャレンジ小論文10月号テキスト」●年度目標は達成したと考える</li> </ul>		
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業支援の一つとして研究成果の応用方法等を公開していく。</li> </ul>		0.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本機械学会熱工学部門学会賞委員●日本機械学会論文集校閲委員●論文査読4件(国内誌1件、国際誌3件)特別講演依頼(応用藻類学会)●年度目標は十分に達成したと考える</li> </ul>		
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H27年度工学部研究推進委員</li> <li>・H27年度学科入試委員</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>●産官学連携推進委員研究推進部門長として毎月2回の会議に参加、学内シーズ研究と学外企業ニーズとのマッチングサポート(11件) ●発明審査委員会副委員長として毎月委員会に参加、特許庁会議に参加●H27年度工学部研究推進委員●H27年度学科入試委員 ●学科内の学部改組WG委員として多くの作業に積極的に関わった●年度目標は十分に達成したと考える</li> </ul>		
	0.00			0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)								
名 前		照屋 功	所 属		工学部 機械システム工学科	職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の理解を確認し、学生が「わかった」の実感を持つ授業を目指し、授業評価アンケートの総合評価「ふつう」以上が75%を超えるよう努める。</li> <li>・怠惰欠席防止および学生からの質問や意見取得促進を目的とした欠席通知メールを授業欠席者へ送るシステムをTAとともに構築し、実行する。</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中再三学生の理解を確認するよう努め、学生から質問が出るようになった。アンケート総合評価は「ふつう」以上が90%以上と高い評価を得た。</li> <li>・毎回授業後に欠席学生へ出席を促すメールを送ることにより「声かけ」をおこなった。欠席学生から反省メールなどもあり、概ね好評であった。</li> <li>・学科内教員有志による「機械設計技術者試験」対策講座講師として受験学生を指導した。学科学生の合格率は昨年より増加した。</li> </ul>			
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会講演会等への参加および報告発表。</li> <li>・ターボ機械協会沖縄地区委員会幹事としての活動。</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本機械学会講演会に参加し、研究発表した。</li> <li>・講演論文1件。</li> <li>・ターボ機械協会沖縄地区委員会の幹事としてターボ機械への関心向上にむけた地区活動をおこなった。</li> </ul>			
社会 貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域、社会等へ向けた学科や研究内容紹介。</li> <li>・県内外の工業会との連携。</li> </ul>		0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科HPなどで研究内容、設備、学科の紹介をした。</li> <li>・学生の就職活動に関して県内外の企業の方々と交流を持った。</li> <li>・「機械の日ちびっこエンジニア体験教室」を実施し、学部学科PRをした。</li> </ul>			
管理 運営	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学学士教育プログラム委員会での活動。</li> <li>・大学院や特別編入等の入試問題作成、その他の入試関連業務。</li> <li>・機械学会九州支部の商議員および沖縄地区副地区長としての運営。</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学学士教育プログラム委員会での活動をおこなった。</li> <li>・大学院や特別編入等の入試問題作成、その他の入試関連業務をした。</li> <li>・機械学会九州支部の商議員および機械学会九州支部沖縄地区副地区長としての運営活動をおこなった。</li> </ul>			
進路 指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼間主コース1年次指導教員として学生の就学・進学・就職等の相談(年次別懇談会、その他)。</li> <li>・保護者への学習状況連絡等により保護者も巻き込んだ学習・生活指導。</li> <li>・研究室、その他の学生への進路指導。</li> </ul>		0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼間主コース1年次指導教員として学生の就学進学・就職等の相談(年次別懇談会、その他)を特におこない、学生を指導した。</li> <li>・学習状況連絡等による年次学生保護者も巻き込んだ学習生活指導をした。</li> <li>・研究室、その他の学生への進路指導をした。</li> </ul>			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前	松田昇一		所 属	工学部 機械システム工学科		
	職 名	准教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	学生から積極的に意見を聞き、授業を改善する。 研究室の4年生を対象として伝熱ゼミを行う。 各卒業研究、修論テーマに対する英語論文ゼミおよび進捗ゼミを行う。		0.30	学生から積極的に意見を聞き、その都度資料を作り対応した。 4年生、大学院生を対象に伝熱ゼミを開き、研究の基礎を固めた。 各卒業研究、修論テーマに対する英語論文ゼミおよび進捗ゼミを行い研究の基礎を固めた。 学年指導教員として不登校学生の学習支援、生活指導を行った。	
研究	0.40	学会誌へ投稿(1~2件)を目指す。 国内発表(2~3件)を目指す。 国際学会発表(1~2件)を目指す。 科学研究費補助金(H25~27年度、基盤C)対象の研究を精力的に行う。 大阪大学接合科学研究所と共同研究を行う。 佐賀大学海洋エネルギー研究センターと共同研究を行う。		0.40	学会誌へ2件投稿、国内学会にて2件発表、国際学会にて1件発表(ISTS2015)。 科学研究費補助金(H25~27年度、基盤C)対象の研究を精力的に行い、H28年度科学研究費の申請を行った。 溶融池磁場溶接に関して大阪大学接合科学研究所との共同研究を行った。 佐賀大学と久米島OTEC施設での共同研究を行った。	
社会 貢献	0.15	学外の行事に参加する。 溶接学会の若手の会委員、教育委員として社会貢献に努める。		0.15	大阪大学接合科学研究所(12月)にて「溶融池磁気アーク溶接法」に関する特別講義を行った。 溶接学会教育委員および若手の会委員として社会貢献に努める。 機械学会熱工学部門運営委員として社会貢献に努める。	
管理 運営	0.15	広報・図書委員、ニュース編集WG委員として努める。 オープンキャンパス・高校訪問担当として努める。		0.15	広報・図書委員、ニュース編集WG委員として努める。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		石川 正明	所 属		工学部 機械システム工学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生実験のレポートの提出状況をよくするために、メール等活用する。</li> <li>講義の欠席数を減らすために、欠席する学生へメールなどでコミュニケーションを取り、指導する。</li> <li>研究室学生に対し、メールまたはゼミ等で、就職情報を提供するとともに、就職状況を把握する。</li> </ul>		0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生実験のレポート遅れの学生に、メールで連絡をして、対応した。</li> <li>欠席管理システムにより、3回欠席があった学生には、メールを利用し、指導した。</li> <li>毎週あるゼミ内にて、就職状況を把握し、全員の就職を確認した。</li> </ul>			
研究	0.50	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際会議、国内会議へ積極的に参加し、研究成果を発表する。</li> </ul>		0.50	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際会議 (ISAIF12 (Italy)) へ参加し、口頭発表をした。</li> <li>国際会議 (ISMTMF9 (Sapporo)) へ参加し、座長および口頭発表をした。</li> <li>国内会議 (可視化情報シンポ) に参加して、座長および口頭発表をした。</li> </ul>			
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本混相流学会における委員会へ参画する。</li> <li>ISMTMF (混相流の計測技術に関する国際会議) の委員として活動する。</li> </ul>		0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本混相流学会主催の国際会議 ISMTMF (混相流の計測技術に関する国際会議) の国内委員として活動した。</li> <li>工学の体験を通して興味を持ってもらうように、「ちびっ子エンジニアリング体験教室」へ参加した。</li> </ul>			
管理運営	0.00			0.00				
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	安田 啓太		所 属	工学部 機械システム工学科	
職 名	助教				
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.35	講義科目として機械システム工学実験I(3年生向け)、情報科学演習(1年生向け)、および機械システム工学演習(4年生向け)を担当する。新任教員であり、いずれの講義も初めての担当であるが、学生がこれらの講義を通じて機械システム工学や関連する諸分野に対する理解を深めることのできるよう、具体的で分かりやすい講義を志して取り組む。 また、4年次3組(夜間主コース)の指導教員であり、学習面のみならず生活面でもサポートできる学生に対して接していく。 卒業研究では3名の学生が本配属となる。研究を通じてこれまで学んできた学問に基づく知識や経験をさらに高め、卒業後にも糧となるよう指導する。	0.35	担当した講義は情報科学演習、機械システム工学実験I、機械システム工学実験II、機械システム工学演習、機械基礎工学である。いずれも今年度からの担当で、理解しやすい講義構成を考えて受講生の反応に柔軟に対応することで教育成果の向上に努めた。 また、ティーチング・アシスタントの学生が積極的に講義に関わることを促し、その資質の向上のため取り組んだ。 4年次3組の指導教員としては、学習指導の補助を行ったほか、卒業記念駅伝大会の運営を補助することで学生活動の支援を行った。 卒業研究の本配属となった学生に対しては、学習内容が個々の研究に留まらず、広く知識を得ることができるよう促しながら指導を行った。	
研究	0.40	クラスレートハイドレートと呼ばれる水と“ゲスト物質”からなる化合物の物性を明らかにする研究を行う。また、新規研究として、「熱流体シミュレーションによる高速大量海藻培養水槽の設計」、「微小微量ミストを付加した衝突噴流熱伝達」にも取り組む。 研究成果は学術論文としての発行を目指す。また、現在論文を執筆中であり、査読付きの国際誌に投稿する予定である。 外部獲得資金としては科研費の研究活動スタート支援に応募予定である。	0.35	クラスレートハイドレートに関わる研究を中心として進めた。その成果をFluid Phase Equilibria誌(IF: 2.200)で報告した(Yasuda et al. Fluid Phase Equilib., 2016, vol.413, pp.170-175)。 新規テーマについては次年度以降の進展の足がかりとなるよう取り組んだ。外部獲得資金として科研費(研究活動スタート支援)など4件に応募した(不採択3件、審査中1件)。 また、農学部の上瑞樹教授と養蜂に関する研究をスタートさせ、産学官連携推進機構の学内公募へ応募したテーマが採択された。	
社会 貢献	0.10	学内外の行事に積極的に参加する。 学会活動の開始に向けどの学会を主たる学会とするかを決定する。	0.10	日本機械学会「機械の日」特別イベント、ちびっこエンジニアリングで体験型学習として紙飛行機の作成を提供した。 イベントを通じ、小学生が将来の展望として機械工学に興味を持つよう取り組んだ。	
管理 運営	0.15	交通指導委員として学内・学外における交通ルールの順守と安全に対する意識を高めるよう指導する。指導を通じてキャンパス内外を問わず、安全な学生生活を送れるよう啓蒙する。 また、JABEE教育環境委員として学生に対する教育環境をより良くするよう活動する。	0.20	オープンキャンパスで学科見学ツアーの一環としてクラスレートハイドレートをを用いた実験を行い、高校生が幅広い分野に興味を持つよう取り組んだ。 工学部交通指導委員会の委員を担当した。交通指導委員会では駐車場の巡視など学内の交通環境の改善を目指し活動した。 4年次指導教員として時間割編成などの業務にあたった。	
	0.00		0.00		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		